



《ピースあいち 10周年 特別企画》

世界中の子どもみんなに平和としあわせを—
ピエゾグラフによる

いわさきちひろ展

2017年7月18日(火)～8月31日(木)

平和を願い、子どもへの溢れる愛を描いた画家いわさきちひろ。9000点余の作品を残して短すぎる55年の人生を駆け抜けていきました。青春期に戦争を体験したちひろには、平和の尊さが胸に刻み込まれていました。戦後、画家になって、「平和で、豊かで、美しく、可愛いものがほんとうに好きで、そういうものをこわしていこうとする力に限りない憤りを感じます」という言葉を残しています。

本展では、命の輝きといえる子どもたちや、絵本などの代表作30点のピエゾグラフ作品と、戦争をテーマにした絵本『わたしがちいさかったときに』から作られた「平和パネル」、そして、ちひろの生涯を紹介する展示を行います。世界に暴力や差別が吹き荒れる時代だからこそ、ちひろの絵に触れて、人への優しさや命の尊さに心を寄せたいと思います。(協力 ちひろ美術館)

●入場料 大人500円 小中高生200円

*入館料大人300円 小中高生100円を含みます。

●休館日 月曜日(会期中は日曜日も閉館)

<展示内容>

四季の子どもたち／アンデルセンや自作の絵本から／
平和な世界で 戦火のなかの子どもたち／井上ひさし
の『子どもにつたえる日本国憲法』から／絵本『私がち
いさかったときに』平和パネル(ちひろ美術館制作)／
いわさきちひろとその時代

◇映画「いわさきちひろ 27歳の旅立ち」上映会

7月30日(日)・8月20日(日) 両日とも14:00～15:30

1階交流のひろば

参加費／入館料で参加できます。

◇講演会「母いわさきちひろを語る」

松本 猛(ちひろ美術館常任顧問)

7月23日(日)13:30～15:00 1階交流のひろば

参加費／大人1000円 小中高生500円 要予約
(入館料や「いわさきちひろ展」入場料とは別途に必要です。)

◇紙芝居いわさきちひろ作品上演会

7月21日(金) 28日(金) 8月18日(金) 25日(金)

各日13:30～14:00 1階交流のひろば

参加費／入館料で参加できます。



*ピエゾグラフについて

精巧な画像表現技法により、繊細な水彩画の中間色の色彩や絵肌の質感などを再現し、現在の技法で最も原画に近いものです。

これからの展示

■ 15歳の語り継ぐ戦争

「金城学院中学生の壁新聞と平和かるた」

7月18日(火)～8月31日(木) 2階プチギャラリー

広島への修学旅行で見た・聞いたお話、祖父母から聞いた戦争体験を一人ひとりが一枚の壁新聞にまとめました。「ピースあいち」開館以来、ずっと続いている展示です。

■ peace nine 2017巡回展

9月5日(火)～23日(土) 3階展示室

今年で6回目、恒例となった名古屋芸術大学の学生、先生、大学外部作家による憲法9条や平和をテーマにした美術展。出品予定者は20人です。昨年好評だったギャラリートークも、9月9日(土)13時30分～15時に行われます。

● ピースコンサート

9月10日(日) 1階交流のひろば 参加無料

出演:名古屋二期会アンサンブル研究会

■ 準常設展示

「戦争の中の子どもたち」と「戦争と動物たち」展

9月27日(水)～

11月30日(木)

3階展示室



さまざまな「ピースあいち開館10周年記念事業」を開催

2007年5月4日、春風さわやかな青空のもと開館した「ピースあいち」。それから10年たち、その間、累計6万4千人余の来館者を迎えることができました。それを記念して、さまざまな事業を開催しています。

記念式典の挙行 5月14日(日)

開館10周年記念式典を「ピースあいち」1階交流広場で公職者、平和団体、会員、ボランティアなど80名を超える方々の参加を得て執り行うことができました。

立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長 安齋育郎さんの「平和博物館の現状とその役割」と題した講演と、「ピースあいち」の朗読グループ「オリーブの会」による詩の朗読で花を添えていただきました。

最後に野間美喜子館長による次のお礼の言葉で、1時間の式典は終了しました。

「10年前、すべてが初の試みでした。しかし素晴ら



森 昭夫理事長

朗読グループ「オリーブの会」

しいボランティアに恵まれ、惜しみない多くの支援の中で孤立することなく歩んで来ることができました。戦争体験者が減り、軍勢力が強まる中、沖縄を含め憲法理念が実現されるよういっそう頑張っていきましょう」。

楽しい会だった記念パーティー

5月14日(日)

110名が参加し、ホテルルブラ王山で10周年記念パーティーも開かれました。

来賓の安齋育郎さんは手品を披露しながら、「平和は壊れると復元が難しい」とのお話。同じく来賓の『あとかたの街』作者の漫画家・おざわゆきさんからもお祝いの言葉をいただきました。10年間ボランティアを続けられた方や協力者の計47人に感謝状が渡され、またサプライズで野間館長にボランティア有志から感謝状と花束が贈呈されて、会場は盛り上がりました。



野間美喜子館長

沖縄歌謡で踊り出す…

大城節子さんの沖縄歌謡では、会場でエイサー踊りが自然に始まりました。ボランティアの歌謡吟詠もあり、和やかな雰囲気にも包まれたパーティーでした。

企画展

「戦争と平和の資料館ピースあいち 10年のあゆみ」

4月11日(火)～5月20日(土)

1993年から始まった市民による県・市への「戦争メモリアルセンター」開設要請が難航するなか、2005年に開



催した展示会を契機に高齢の女性からの申し出により土地と資金の寄付を受け、2007年に平和資料館を開設した経緯と、開館後10年間の貴重な活動記録や資料が展示されました。

寄贈を受けた「原爆ドーム鉄製模型」や「アンネ・フランクにまつわるアンネのバラ」など、「ピースあいち」の雰囲気醸し出す話題も添えられていました。

ピースあいち開館10周年記念誌

『希望を編みあわせる』発行

「愛知に戦争メモリアルセンターの建設を!」と始まった前史、手探りでやってきた館の運営と資料収集、企画・展示づくり、そして、これからの「ピースあいち」への期待などを、ボランティアの思い出や座談会、寄稿などで綴っています。この10年で培ってきた、市民による平和博物館、博物館運動としての「ピースあいち」の姿を読み取っていただけたらと思います。



A4判(変形)本文132頁 販売価格1000円

感動をよんだ——「竹下景子さんと一緒に朗読とおしゃべりを楽しもう！」

5月29日(月)

名古屋出身の女優竹下景子さん、天野鎮雄さん、山田昌さんのトークと朗読会。ボランティアを中心に68人が参加しました。竹下さんのお父様の竹下重人さん(故人)は「ピースあいち」設立に関わり、また、前身のNPOの季刊誌『承継』にも手記「シベリア抑留の体験記」を寄せてくださっています。以下は、ボランティア 大久保勝子さんの感想です。

* * *

お三人が登壇した途端に、会場に和やかさが広がった。天野鎮雄さんの「ふたつの悲しみ」(杉山龍丸)は、冷静で淡々と語られる朗読がそれは事実であったと伝え、戦争の理不尽さが悲しかった。山田昌さんは「崖」(石垣りん)。あの声での詩の朗読は、ヒロシマと沖縄の口惜しさが、私の心に突き刺さり、絶品だった。竹



下景子さんの「シベリア抑留の体験記」(竹下重人)の朗読は、まるでフランクルの「夜の霧」を彷彿とさせる内容で、与えられた悲惨な運命の中で、人間を愛する知性と情熱がうかがわれて感激した。父親の見ていた方向が、「ピースあいち」で娘の景子さんにバトンタッチされたような嬉しさを感じることができた。

「語り手の会」第9回例会開催 「語り継ぎ手の会」の立ち上げを決定 6月26日(月)

当日は梅雨時ではありましたが、幸い好天に恵まれた初夏でした。一宮、稲沢、春日井、岡崎、半田といった遠方からの参加者をはじめ26名の方々が参加されました。

会議では、平成28年度の活動報告の後、平成29年度の活動、①平和学習支援事業(県・市の委託を受けて県下の小中学校へ語り手を派遣する事業)、②県・市戦争資料館へ語り手を派遣する事業、③恒例の夏の戦争体験語り事業、④「ピースあいち」へ来館した学校・団体等への語り事業等、延べ50回に上る事業の役割分担を決定しました。

また差し迫った課題となっている「語り継ぎ手の会」の設立が提案され、本年9月にも立ち上げる方向で準備を進めることとしました。このことはNHKテレビでも取り上げられ、放映されました。



2017年 夏の戦争体験語りシリーズ

恒例の語りシリーズ。今年は以下のスケジュールで行います。

月日	語り手	年齢	体験の概要	月日	語り手	年齢	体験の概要
8月1日(火)	今村 實	84	空襲、学童疎開	8月9日(水)	加藤 照	86	岡崎空襲、勤労動員
8月2日(水)	萩原 量吉	76	ゾウ列車で東山動物園へ	8月10日(木)	中野 巖	89	海軍航空隊での軍隊生活
8月3日(木)	河村 廣康	93	シベリア抑留	8月11日(金)	中野 見夫	78	熱田空襲
8月5日(土)	松原実智子	84	学童疎開	8月12日(土)	田邊登志夫	89	海軍での軍隊生活
8月6日(日)	石原 隆	90	広島原爆	8月13日(日)	平田 和香	76	満蒙開拓団の調査研究
8月8日(火)	松下 哲子	83	旧満州での生活	8月15日(火)	望月 菊枝	87	空襲、勤労動員

◆時間 午後2時～3時 ◆会場 ピースあいち1階交流広場
*入館料(大人300円、小中高生100円)でご参加いただけます。
*各日とも語り手の体調によって変更することがあります。

平和へのメッセージ

「組織的犯罪処罰法(共謀罪法)」が強行採決され、成立しました。憲法第九条を変えようとする動きも進んでいます。こんな時代だからこそ、「平和の大切さ」を訴えなければなりません。5人の方に平和への思いを書いていただきました。

ガザ

浅井 薫
(詩人)



—悲しいだろう？

手づくりの小鳥籠は銃弾で打ち壊されている。
破れ千切れた金網のささくれ立ちを
握りしめたまま掌に血を滲ませて
少年は涙も流さずにいる。

—うれしいんだ、小鳥が生きて逃げてくれたから。

壁、一面を染めた血糊を指さして少年は言う。
仲間は鳩小屋の鳩を逃すために
屋上に上っていく途中
頭を銃弾で撃ち砕かれた。

—いつまでも！

血糊の付いたコンクリートの壁を
抉って跳ね返る銃弾の音響くガザ。
少年が見上げる空を
鳩と小鳥の群れが斜めに横切っていく。



平和でなければ
花を活けつづけることはできない
と、きみは言う。
そうではない。
ガザでは
きのう、砲弾で破壊された家々の窓にも
きょう、花が飾られている。
きのう、砲弾で破壊された街角という街角にも
きょう、花が咲きつづけている。

「捕虜のいた町 ～城山三郎に捧ぐ～」を出版して

馬場 豊
(南山国際中学・高等学校教諭)

太平洋戦争の時代、名古屋に捕虜収容所があった・・・8年前これを知った私は、憑かれたようにその実態を調べていきました。数百名の連合軍捕虜が、敗戦時まで重労働に従事させられていた。物語を書いてみたいという思いが強まり、やがて、戯曲として結実しました。

地元の史実、戦時の世相も浮き彫りにしつつ、収容所近くの町医者一家を初め、様々な登場人物の生き方・考え方を一つの物語として描くことにより、今一度、戦争とは何かを見つめ直す機会にしたいと考えたのです。昨今の危機的な政治状況

に対する私なりの反証としたいとの思いが強くなりました。

さらに、そうした困難な時代にもめげず、先人が守ってきた絞り産業の伝統を復興していこうとした人々のたくましい精神にも光を当てました。

戯曲に加え、収容所の実態、元軍属へのインタビュー、俳優下元勉・米倉斉加年氏の手紙、絞り産業の変遷などをまとめた「取材ノート」をつけ、さらに、幻の短編・城山三郎「捕虜の居た駅」を雑誌発表後五十年以上を経て、本書(中日新聞社・刊)に初掲載しました。御一読頂ければと思います。

平和への思いを、改めて声にしよう

小川明子

(名古屋大学大学院准教授)



社会心理学の領域に、ドイツの政治学者ノエル＝ノイマンが提唱した「沈黙の螺旋効果」という仮説がある。これは、その時点では少数派の意見であっても、その意見がマス・メディアや声の大きな人びとの間で何度も発せられ、大多数の意見であるかのように認識されることによって、大多数の人が有していた意見のほうが少数派だと認識されてしまい、その結果、多くの人びとが少数派として排除されることを避けるために沈黙してしまうという現象を指摘したものだ。そして沈黙は、さらなる沈黙を呼び、もとは少数意見だったものが世論を制するまで続く。

もともと集団主義的な性質を指摘される日本社会でこの仮説が当てはまりやすいことは常々指摘されてきた。ここにきて、少数派だった意見が、ネット上で拡散され、まるで常識であるかのように他の意見を駆逐し、その状況に力を得て、テレビやラジオでも拡散し続けている。家族との共同視聴が多いテレビと違い、スマートフォンはじめとするネット中心の情報環境は、若者も危うい少数意見に影響されやすい。抑圧や戦争を「仕方ない」とする意見が多数派にならないよう、平和への思いを、改めて声にすることが、今、求められている。

“オカミ”はウソをつく

大牧富士夫

(文芸同人誌「遊民」同人)



夏がやって来た。ふるさとの川がなつかしい。耳を澄ませば、なつかしい瀬音が流れている。ぼくは、徳山ダム建設であの村を出た。五十年のその昔となるが、そのころ、“オカミ＝(政府)のやることだから誤りはなかり”と村人は考えて、オカミに言うままに従います、と村をすてた。故郷、おだやかな、平和な暮らしを失ってしまった。気づいたら、日々、苦勞はしていたが、気楽に息していた暮らしはなくなっていた。

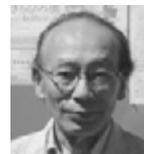
かも分からない特定秘密保護法をつくり、多くの学者が違憲とする安保関連法を通し、共謀罪をこり押しして人々の内懐にまで手をいれてその生活を監視しようとしている。個人の権利を制限して国家に権利を集中しようとするのは、平和憲法をないがしろにして戦争をしようとする考えである。今、オカミはウソをついている。政府への権力強化は、これはもう平和な生活を壊し、戦争への道である。こんな危ない道をたどるのは、声をあげて反対しよう。平和への声を上げよう。

今、オカミは、何をしようとしているか、眉唾ものである。このごろのオカミは、何が秘密

歌を通して伝えたい平和への思い

荻野克典

(「ピースあいち」ボランティア)



私は大学時代“うたごえは平和の力”を標榜する合唱団で、反戦や平和をテーマにした歌を意気に感じ歌い上げていました。高校教師を退職後、シャンソンを歌うようになって、そのDNAが再び蘇ってきているようです。

わらないこともあります。幸か不幸か元世界史教師の癖が出て、歌う前につき曲の背景を語るが多くなってきました。

まずシャンソンには、戦争や動乱がもたらした悲しみ、怒りなどが込められた名曲が多くあることを発見し、その魅力に引き込まれました。歌い上げるだけでなく、しみじみと深く表現することの大切さもわかってきました。何度も重ねてきたコンサートでも、反戦・平和がテーマの歌は必ず何曲か入れてきました。第二次大戦、ベトナム戦争、パレスチナ問題などからむ歌も歌ってきましたが、歴史背景抜きには歌の心が深く伝

今回(5月20日)のコンサートでも、「インシャラー」というパレスチナ人の苦難を歌った曲を前に、またやりました。コンサート終了後やり過ぎたとの思いもよぎりましたが、意外に多くの方から、あの解説はとて勉強になった、曲の理解が深まってよかったなどの感想をいただき、ほっとしました。

反戦・平和の歌(シャンソンとは限らないが)の心を、語り(解説)もまじえて歌い伝えることが、私にできる平和へのささやかな貢献なのかな、と思うこのごろです。

企画展 名古屋城が炎上した5月―「名古屋大空襲」展

4月11日(火)～5月20日(土)

今年の名古屋大空襲展は名古屋城が炎上した5月14日に焦点を当て、「ピースあいち」オリジナルの「しゃっちーくん」が、名古屋城天守閣と金鯱がたどった歴史を案内しました。

名古屋城天守閣が陸軍の管理から「離宮」を経て名古屋市民に下賜された歴史、1945年5月14日の空襲で天守閣と金鯱の焼失したことを報告した「国宝建造物滅失届」、なかでも米軍偵察機が撮影した「炎上前の名古屋城」と「炎上後の名古屋城」を比較した大型の空中写真は、名古屋で初公開のものでした。さらに米軍資料「名古屋焼夷区画図」を詳細に検証することで、5月14日の米軍の空襲目標は名古屋北部市街地を焼き尽くすことであり、名古屋城は誤爆であったことを示した展示は、名古屋大空襲研究の新しい成果でした。

4月15日(土)には、高校教諭の西形久司さんによる講演会「語られなかった名古屋城 波乱に満ちたその近代史」を開催。西形さんは、名古屋城をめぐる2つの「記憶」―名古屋城は昔から市民に親しまれていたという「記憶」、だから米軍は名古屋城を狙ったのだという「記憶」―について検証しました。



「しゃっちーくん」のご案内

西形久司さんの講演

知られざる沖縄の真実―ハンセン病患者の沖縄戦

5月30日(火)～7月1日(土)

「ピースあいち」は開館一周年の特別展「沖縄から戦争と平和を考える」以来、毎年6月23日の「沖縄慰霊の日」をはさむ時期に、沖縄をテーマに企画展を開催してきました。今年も、沖縄県名護市にある沖縄愛楽園交流会館のご協力のもと、沖縄県のハンセン病患者がたどった差別と偏見の歴史、とりわけ戦時下の沖縄で、ハンセン病患者が受けた苦難に焦点を当てた展示でした。

見た人の多くが「知らなかった」という言葉を残していかれたことで分かるように、沖縄でハンセン病患者が多かったのはなぜか、ハンセン病患者への差別や偏見がなぜ生じたのかなどについて、これまであまり知られてなかった情報を提供できたと思います。

また、ハンセン病の治療と研究に終生を捧げた愛知県出身の小笠原登医師(1888～1970 愛知県甚目寺村円周寺出身)についても、日記、手紙などの遺品も含めて展示できました。患者と家族が差別と偏見に苦しむ時代、「らいは治る」と、自らの信念を貫いて患者に寄り添い、医療を実践した小笠原医師から、人権尊重の大切さを学んだ展示でもありました。

6月24日(土)には、沖縄愛楽園交流会館研究員鈴木陽子さんによる講演会「戦世(いくさゆ)の愛楽園―



鈴木陽子さんの講演

沖縄のハンセン病患者をめぐる差別・偏見・排除のかたち―」を開催。100名以上の来館者がつめかけ、熱心に聴講しました。

総会報告 今後の2つの課題に取り組む
6月10日(土)

今回の出席者は21名。議事に先立って、野間美喜子館長は次のように述べた。「開館10周年にあたり、記念誌の刊行をはじめいくつかの記念事業を予定している。今後の課題は、〈語り継ぎ手の会〉の組織化と財政基盤の確立です」。



このあと議事に入り、2016年度の事業報告と決算報告・監査報告を承認、次いで2017年の事業計画、年度予算を審議して可決。今後の課題に取り組むことを確認して終了した。

「平和を願う 絵てがみ」展
6月1日～7月15日(土)

「戦争メモリアルセンターの建設を呼びかける会」が2000年8月、名古屋市博物館で開催した「平和を願う絵手紙」展より、34点の作品を2階プラチナギャラリーに展示しました。



「八月の巡りくるたび 浮びくる 戦没の兄はたちを越えず」「一生分のカボチャは喰った もう喰わんぞ!」「お国のためにチーコーは、“ワン”と一声なき ふりむきふりむき召されていきました。勇ましい犬でした!」…。

戦争体験が生々しく描かれている絵てがみが、現在の私たちの心に深く訴えてきました。

10周年記念募金へご協力をお願い

10周年記念募金を5月から始めました。募金の用途は、建物の補修改修、ホームページのリニューアル、記念誌発行などで、目標金額を1,000万円として12月までを募集期間とします。「ピースあいち」は公的補助を受けず、市民ボランティアが運営を支えています。財政基盤を強めて、これからの10年も「自由で澁澂とした活動」が続けられるよう、ご支援の募金を使わせていただくつもりです。ご理解とご協力をよろしくお願ひします。

朗読劇「あの夏の空にとどけ」
7月8日(土)

今年で9年目、「ピースあいち」での発表が恒例となった、南山国際中学・高校演劇部、保護者有志による「南山国際朗読劇」です。今回は「大人になれなかった弟たち」「原爆詩集」「地雷ではなく花をください」などが披露されました。



2017年愛知サマーセミナーに参加
7月16日(日)

今年の「ピースあいち」は、「映画『ひろしま』上映会-小林開さんのトークとともに」と、「広島市民が描いた原爆の絵」で参加しました。いずれも、2月に「ピースあいち」で行った企画です。

「広島市民が描いた原爆の絵」は、ヒロシマの被爆体験者が自らの体験にもとづいて描いた絵です。原爆とはどんなものだったのか、被爆者の思いが込められています。1枚1枚の絵から、広島で起こった筆舌に尽くし難い情景が、生々しくよみがえってきます。絵と並べて、絵が描かれた場所の現在の写真を撮影してきて展示しました。今もなお、地球上には数万発の核兵器が存在し、人類はその脅威にさらされています。



ピースあいちの展示から

10周年記念事業
「私にとっての平和とは?」
投稿募集

あなたの平和への思いを言葉にしてください。書くことで、言葉にすることで、きっと何かが見えてきます。

*文字数
一言から800字まで

*締切
2017年12月31日(日)

*応募方法 住所・氏名・年齢・連絡先(電話番号・メールアドレス)を記入の上、ピースあいちHP「私にとっての平和とは?」投稿特設ページへ、またはFAX・郵送で。



資料館探訪 19

予科練の資料たっぷり——
津市香良洲歴史資料館

津市香良洲町にある資料館は、14～15歳の海軍飛行予科練習生(予科練)の教育を専門に行った「三重海軍航空隊」の跡地にある。レンガ造りの正門は、当時のものを移築。1970年に航空隊の関係者が自分たちの歴史を残す資料館(若桜会館)を開館した。その後、香良洲町に寄贈され、現在は津市の歴史資料館になっている。

玄関を入ると、大きな地図が床に貼り付けられ、当時の航空隊の大きさがわかるようになっている。1階は平和への歩み、2階は日本の近代化の歴史と津の空襲による戦争被害の様子、3階は航空隊資料の展示、飛行機の模型や海軍の大將から3等兵の襟章等々が展示されている。遺影や遺書もある。面白かったのは精神注入棒(長さ1m強、直径10cm強)があったことだ。入館無料。(N)



月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

ぜひ「ピースあいち」の会員に!

2017年5月の開館10周年記念式典を皮切りに、さまざまな10周年事業が始まりました。10周年特別企画の「いわさきちひろ展」も開催中です。

「ピースあいち」の基本財源は、入館料(大人300円・子ども100円)と会員の皆さんの年会費(正会員6000円・賛助会員3000円)です。来館者数は、開館した2007年は約12,000人、以後は6,000人前後で推移してきました。

現在会員数は914名(正会員354名・賛助会員660名)ですが、「ピースあいち」の年間経費約1,250万円には大きく足りません。不足分は不確定な寄付金や助成金に頼っているのが現状です。自主財源の確立は、まず会員の拡大です。ぜひ多くの方に会員になっていただき「ピースあいち」を支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・年末年始
- 入館料 大人 300円 小中高生 100円
- 2階の常設展示室のほか、1階の「現代の戦争と平和」というテーマの常設展示。ほかにも準常設展示として「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」があります。1階には戦争に関する図書や戦争体験談のDVDライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

「ピースあいち」への交通のご案内



●編集後記●

陽気な季節の頃の私は、地下鉄「一社」の駅から「ピースあいち」まで歩くことにしているが、重い荷があるときにはタクシーを利用する。ある日、運転士さんが、「今日は休館日ですが、いいですか」と言われたことがあった。運転士さんには当館の所在地だけでなく、休館日まで覚えてられるようになった。

一方、このところ戦時遺品を持ち込まれる方が多くなった。「祖父が大切にしていたものです」とか、「亡くなった父の遺品です」という言葉が添えられる。当館の知名度が上がったことを示している。まさに「継続こそ力なり」である。(S)